

故事成語を調べよう

年

組

番

氏名

◆ 中国に伝わる古い話がもとになって生まれた言葉を故事成語といいます。
次の文章を読んであとの問いに答えなさい。

昔、中国に賈島（かとう）という詩人がいました。賈島は、役人の試験を受けるため、ロバに乗って都に来ました。都の中を移動しているときに、詩を作ることに夢中になってしまった賈島は、目の前を役人の行列が通っていることに気付かず、その行列に、ロバに乗ったままぶつかってしまいました。その行列は、韓愈（かんゆ）というえらいお役人のものだったので、その場は大きわざになりました。
このとき賈島の頭をいっぱいにしていたのは、試作中の詩の句に、「推す（おす）」という言葉を使うか、「敲く（たたく）」という言葉を使うかということでした。
「僧は推す月下の門」（僧は月明かりのもと、友人の家の門をおす）
（なかなかいい句だが、推すよりも敲くのほうがいいかもしれない。）
「僧は敲く月下の門」（僧は月明かりのもと、友人の家の門をたたく）
（これも、悪くないなあ。）
賈島がぶつかってしまったわけを説明すると、文学者でもある韓愈は、「それは、『敲く』のほうがよいだろう。」
と、アドバイスをくれました。
その後、ふたりは詩について語り合い、親しい仲になったということでした。
（『唐詩紀事』をもとに作成）

(1) 韓愈が、「敲くのほうがよい」と考えたのは、次の【理由】からです。【理由】の【ア】
【イ】にあてはまる言葉を、①、②の中からそれぞれ一つ選び、番号を書きましよう。

【理由】

【ア】であれば、僧はあらかじめ約束をしてあって、勝手に門を開けて入っていくことになる。

【イ】であれば、僧はたまたま月が美しいので、友といっしょに味わおうと思っ
て友をさそったことになる。

だから、「敲く」の方が、静かな夜、月明かりのもと、門を敲く音がひびいて風流で
ある。

① 推す（おす） ② 敲く（たたく）

答え ア イ

(2) この話をもとにした、「詩や文章を書いたあと、何度も練り直す」ことを表す故事成語があります。その故事成語としてあてはまるものを、次の①～③の中から一つ選び、番号を書きましよう。

① 五十歩百歩（ごじっぴゃひゃっぱ） ② 推敲（すいこう） ③ 蛇足（だそく）

答え

【解答】 故事成語を調べよう

年

組

番

氏名

◆ 中国に伝わる古い話がもとになって生まれた言葉を故事成語といいますが、次の文章を読んであとの問いに答えなさい。

昔、中国に賈島（かとう）という詩人がいました。賈島は、役人の試験を受けるため、ロバに乗って都に来ました。都の中を移動しているときに、詩を作ることに夢中になってしまった賈島は、目の前を役人の行列が通っていることに気付かず、その行列に、ロバに乗ったままぶつかってしまいました。その行列は、韓愈（かんゆ）というえらいお役人のものだったので、その場は大さわぎになりました。このとき賈島の頭をいっぱいにしていたのは、試作中の詩の句に、「推す（おす）」という言葉を使うか、「敲く（たたく）」という言葉を使うかということでした。「僧は推す月下の門」（僧は月明かりのもと、友人の家の門をおす）（なかなかいい句だが、推すよりも敲くのほうがいいかもしれない。）「僧は敲く月下の門」（僧は月明かりのもと、友人の家の門をたたく）（これも、悪くないなあ。）

賈島がぶつかってしまったわけを説明すると、文学者でもある韓愈は、「それは、『敲く』のほうがよいだろう。」と、アドバイスをくれました。その後、ふたりは詩について語り合い、親しい仲になったということでした。（『唐詩紀事』をもとに作成）

(1) 韓愈が、「敲くのほうがよい」と考えたのは、次の【理由】からです。【理由】の【ア】にあてはまる言葉を、①、②の中からそれぞれ一つ選び、番号を書きましよう。

【理由】

【ア】であれば、僧はあらかじめ約束をしてあって、勝手に門を開けて入っていくことになる。

【イ】であれば、僧はたまたま月が美しいので、友といっしょに味わおうと思って友をさそったことになる。

だから、「敲く」の方が、静かな夜、月明かりのもと、門を敲く音がひびいて風流である。

- ① 推す（おす） ② 敲く（たたく）

答え

ア ①

イ ②

(2) この話をもとにした、「詩や文章を書いたあと、何度も練り直す」ことを表す故事成語があります。その故事成語としてあてはまるものを、次の①～③の中から一つ選び、番号を書きましよう。

- ① 五十歩百歩（ごじっぴひゃっぱ） ② 推敲（すいこう） ③ 蛇足（だそく）

答え

②

※いろいろな故事成語について調べてみましょう。